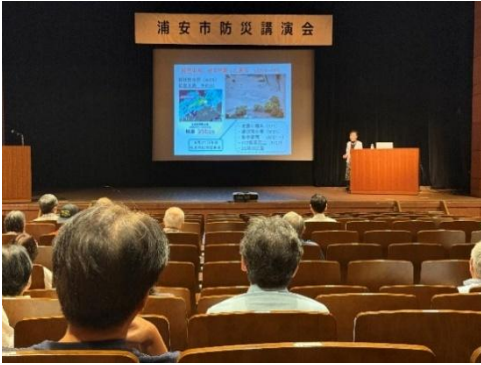


開催地名	千葉県 浦安市
開催日時	令和6年10月5日(土)10:00～11:30
開催場所	浦安市文化会館
語り部	平澤 つぎ子(千葉県旭市)
参加者	63名
開催経緯	自主防災組織及び消防団の高齢化や加入者の減少による担い手の不足が課題となっており、本講演を通じて、自助、公助の考え方の普及啓発に繋げたい
内容	■ はじめに 講演者は、東日本大震災の経験をもとに、災害対策の重要性と地域特性に応じた準備の必要性について語った。特に、異なる特性を持つ二つの市、浦安市と旭市の比較を通じて、災害対策の多様性を示し、地域ごとに適した防災計画の重要性を強調した。 浦安市と旭市はともに海に面した自治体であるが、人口規模や高齢化率に大きな違いがある。浦安市は約17万人の人口を抱え、高齢化率は18.6%であるのに対し、旭市の人口は約6万2千人、高齢化率は32.2%と比較的高い。このような違いは、災害時の対応や復興における課題の差となって現れることが指摘された。また、両市とも東日本大震災において液状化被害を受けたが、旭市では津波被害面積の2倍以上に及ぶ範囲で液状化現象が発生し、地震による複合的な影響の大きさが浮き彫りとなった。 ■ 旭市の東日本大震災被害状況 2011年3月11日14時46分に発生したマグニチュード9.2の地震は、旭市において震度5強の揺れを2回引き起こした。津波は地震発生約1時間後に到達し、最大波は23メートルに達したとされる。この想定を超える津波の規模は、防災対策における予測の難しさを改めて示すものであった。 災害対応においては、消防署の迅速な行動が評価された一方で、地域住民の初動対応や避難の判断が生死を分ける要因となった。旭市の被害から得られた教訓として、住民が適切な情報をもとに即座に避難行動を取ることの重要性が強調された。 ■ 近年の災害事例と防災対策の課題 最近の災害事例として、2024年1月1日に発生した能登半島地震が取り上げられた。この地震は午後4時10分頃に発生し、本州から北海道、九州まで広範囲に揺れを観測した。被害状況は多岐にわたり、津波は地震発生1分後に到達、さらに1月2日午前2時半頃には火災が発生した。建物の倒壊による人的被害が多く報告され、過去の地震との比較でも、建物倒壊による圧死が大きな割合を占めた。 阪神・淡路大震災では死者5,488人のうち5,175人が圧死、熊本地震では死者41人のうち30人が圧死しており、今回の能登半島地震でも同様に建物倒壊が主要な死因となった。このデータから、建築物の耐震化や適切な避難行動が、防災対策として極めて重要であることが浮き彫りとなった。 また、能登半島では2023年9月に豪雨被害が発生し、地震からの復旧途中でさらなる災害に見舞われた。線状降水帯による大雨により市役所駐車場が冠水し、117の集落が孤立する事態となった。地震による地盤の緩みが豪雨の被害をさらに拡大させ、複合災害のリスクを改めて示す結果となった。こうした事例から、自然災害が単独で発生するわけではなく、連鎖的に被害をもたらすことを前提にした対策の必要性が強調された。 ■ 防災の三要素と公助の限界 防災力を高めるための基本的な考え方として、「自助」「共助」「公助」の三要素が示された。 ・自助:個人や家庭単位での防災対策(備蓄、耐震対策、避難計画) ・共助:地域住民同士の助け合い(自治会や自主防災組織の活動) ・公助:行政の災害対応(救援活動、支援物資の提供) 特に公助には限界があり、災害直後に行政の支援を期待できないケースが多いため、自助と共助の強化が不可欠であることが指摘された。阪神・淡路大震災では発災直後の生存率が圧倒的に高かったのは「近隣住民による救助」によるものであり、公的な支援が本格化する前の段

	階で、地域住民同士が助け合うことの重要性が示された。 個人レベルでの防災対策としては、家具の固定や非常持ち出し品の準備、避難場所の確認などが挙げられた。一方で、地域全体の防災力を高めるためには、自治会や防災組織が中心となって防災訓練を実施し、いざというときに即座に行動できるような仕組みを構築することが求められる。 ■ まとめ 本講演では、東日本大震災や能登半島地震をはじめとする過去の災害事例をもとに、地域特性に応じた防災対策の必要性が示された。また、自然災害の予測困難性や、複合災害のリスクについても言及され、事前の備えと迅速な対応の重要性が強調された。 特に、自助と共助の役割が繰り返し強調され、公助の限界を理解しながら地域コミュニティ全体で防災力を強化する必要性が説かれた。過去の震災から学び、実際に行動に移すことが、防災の基本であり、将来的な被害の軽減につながる。 講演の最後には、「防災は他人事ではなく、自分事として考えることが重要である」と述べられ、聴衆に対して防災意識の向上と具体的な行動を促す呼びかけがなされた。  
開催地より	東日本大震災での避難所生活の取組を踏まえて、自主防災組織の活動における自助・共助の大切さについて講演いただいた。本講演を通じて自助・共助の重要性を改めて再認識できたので、今後の活動に活かしていきたい。